

かけがえのない仲間たち ～国を越え共に夢を追いかけてよう～



共同制作のタペストリー「手と手」



一緒に薪割りをして良い汗を流しました



昼食のカレー、美味しくて笑顔が弾けます

皆様、こんにちは。4月に入り春風の心地良い季節になった頃でしょうか。日本はスギ花粉に悩まされている方が多いと思いますが、カンボジアは噂によるとマンゴーの花粉があるそうです。毎日とても暑く、また乾燥している為体調を崩しやすくなる時期です。子どもたちの体調管理には十分注意していきたいと思います。

さて、今回のドリーム通信では郁文館夢学園の生徒さんたちとの交流の様子、州の試験の中学校代表に選ばれた3名の子どもを紹介、新しく入園した2名の子どもを紹介いたします。

郁文館夢学園の学生さんとの交流

3月27日に日本の郁文館夢学園から、中学生と高校生合わせて21名の生徒さんと引率の先生2名が来園されました。

郁文館の生徒さんとの交流は毎年恒例行事の為、3月に入ると園の子どもたちは「今年はいつ来るの?」「何年生が来るの?」と1カ月前から楽しみにしている様子でした。

生徒さんたちが到着すると、農作業と調理グループに分かれ、一緒に作業に取り掛りました。初めはお互い恥ずかしがって、声を掛けられずにいましたが、一緒に作業する中で笑顔が生まれ、会話が生まれ、最初恥ずかしがっていたのが嘘のように仲良くなっていました。また、薪割りのやり方を丁寧に教えてあげている子、普段あまり喋らない子が頑張って話し掛けている姿等の新しい一面をたくさん見ることができ、子どもたちの成長を感じました。

午後は、遊びの時間としてタペストリー作成、折り紙、鬼ごっこの3つのグループに分かれ活動しました。

一緒に一つの物を作り、一緒に遊んで大笑いすることで、言葉以上に伝わるものがたくさんあって、短い時間の中でしたが距離がぐっと縮まっていくのがわかりました。

あっという間にお別れの時間、「ありがとう」「また来てね」と子どもたちから次々に言葉が飛び交い、生徒さんたちが見えなくなるまで手を振り見送りました。



笑いの絶えない時間を過ごしました

国も文化も違う子どもたちですが、夢を追いかけている者同士、「お互い頑張ろうね」と励まし合う姿がそこにはありました。日本からのお客様と関わる機会の多い子どもたち、一つひとつの出会いを大切にしてほしいと思います。

中学代表として州で試験を受けました

カンボジアでは毎年中学3年生と高校3年生の中から、数学、物理、国語の3科目で最も優秀な生徒を表彰するという取り組みが行われています。

子どもたちが通う中学校と高校でも各科目2名ずつ代表が選ばれ、そのうち園から3名の子どもが代表に選ばれました。

物理代表でアン・サオリー（中3・女）、数学代表でタン・セラー（中3・男）とフン・パエット（中3・男）です。ポーサット州で試験を受け、その中で1位になるとポーサット州の代表としてプノンペンで試験を受ける事になります。

3人は試験に向けて毎日夜遅くまで勉強し、補習教師の先生には試験対策の授業をしてもらい、当日の試験に備えました。

3月9日ポーサット州でそれぞれの中学校代表者が集まり試験を行いました。

残念ながら3人とも州の代表には選ばれませんでした。数学代表に選ばれたフン・パエットは67名中4位という好成績を収めました。

試験を終えた3人は口をそろえて「難しかった」と言っていますが、充実感に満ちた良い顔をしていました。

「高校に行って勉強して、夢を叶えたい」と話す3人、今回選ばれた事を自信にして今後も頑張してほしいと思います。

園に新しい家族が増えました

2月16日、夢追う子どもたちの家に2人の新しい家族が増えました。

名前はソーン・チャンホーン（7歳女の子・小学1年生）と、ソーン・チャンダン（5歳男の子・幼稚園生）の姉弟です。

2人の家は園の子どもたちが通っているクラコー高校の近くで、両親を病気で亡くし、近所に住む叔母さんから「子どもたちの将来の為に、良い環境の中でしっかりと勉強させてあげたい」という希望があり入園することになりました。

入園初日は不安げな様子でどこに行くにも2人一緒でしたが、翌日には他の子どもたちと仲良く遊ぶ姿が見られました。

チャンダンは最年少、勉強は文字を書く所から一生懸命勉強しています。チャンホーンは他の子どもにも注意が出来るしっかり者です。

笑顔がとっても可愛い2人、誰からも愛される、素直で優しい人に育ってほしいと思います。



試験前で緊張気味



試験前日の猛勉強中



左:チャンダン 右:チャンホーン 仲よし姉弟